

平成 24 年度第 1 回花巻市地域包括支援センター運営協議会議事録

- 1 日 時 平成 25 年 2 月 15 日（金）午後 2 時 50 分～午後 3 時 40 分
- 2 場 所 花巻保健センター 2 階 集団指導室
- 3 配布資料 別添のとおり
- 4 出席者 委員 熱海 芳廣、小早川隆文、佐々木一広、那須秀逸、高橋修、狩野隆史、橋本純子、佐々木昭男、伊藤成子、朝倉千里、藤本莞爾、高橋照幸、影山一男
(欠席：藤巻英二、川戸多喜子)
- 事務局 生活福祉部長寿福祉課長 玉山 進
長寿福祉課長補佐 高橋 和廣
同 介護保険係長 菊池 司
同 高齢福祉係長 坊澤 尚行
同 上席主任 似内 泉
同 副主任 八重樫直子
健康こども部健康づくり課
成人保健係主任主査兼係長 佐藤 陽子

5 会議内容は次のとおりである。

開 会 14:50

高橋課長補佐 委嘱状については、本来、市長が手渡すところであるが、先に机上へ置かせていただいた。

会長の選出

選出方法については、委員より「事務局案を」と声が上がったことから、事務局より会長に影山一男氏、会長代理者に狩野隆史氏を提案。満場一致で承認された。

会長あいさつ

影山会長 このような会議は不慣れではあるが、時間を守り運営したい。

花巻市地域包括支援センター運営協議会設置要綱第 4 条第 2 項に基づき、会長が議長となる。

協 議

(1) 平成 24 年度花巻市地域包括支援センターの事業実績について

(玉山課長が説明)

質疑応答

狩野委員 社協は包括運営・活動を全般的に見て頑張っている。ただ、ケアプランの一人当たりの作成件数について、地域によって差が大きい。一元化 1 年目としては、

頑張っていると思う。

佐々木委員 2 ページ目の権利擁護について。包括にはお世話になっている。成年後見制度の該当者が増えてきていると思うが、その変遷を聞きたい。該当すると思われる方と関わっていく中で、どうすればよいのか悩む。子供が遠くに住んでいてすぐには来ることができない、老夫婦だけの世帯には支援が必要だ。また、福祉施設の措置についても聞きたい。

八重樫副主任 成年後見制度についての相談は年間で 20 件程度。制度利用に至ったケースは 23 年度で 7 件、24 年度で 2 件あり、包括で実施した。制度利用については、今後ますます増えていくと思われることから、社会福祉士や職員などが連携して、事例を検討しながら取り組んでいく。また、高齢者虐待における分離については 24 年度に 3 例。内訳は、契約による介護サービスの利用と一時保護であるショートステイ、医療機関への入院である。分離については年間 3～4 件で推移している。

佐々木委員 大変なことだと思うが、これからもよろしくお願ひしたい。

小早川委員 今年度から一括で社協が委託を受けることになったが、職員の配置など、一つの組織でやることは良いことだ。実際は、どうだったのか。

玉山課長 包括の一元化のメリットについて。ワンストップの相談ができることや職員間の連携がスムーズにできること、社協や民児協の連携ができることで地域での支え合いに強みももてること。また、社協が培ってきた情報資産が活用できることが上げられる。運営の一本化により、4 点のメリットが見えてきているが、体制が変わったからといって、明確な効果が表れている訳ではない。

小早川委員 コンプライアンスもよろしく頼む。

高橋（照）委員 委託を受けている立場から話をしたい。社協で全地域を網羅していることで職員の情報交換ができるようになり、統一した考え方を持って、地域と連携しながら活動している。予防のプラン作成は地域によるバラツキがあり、生活圏域が足かせになっている。忙しいところに助っ人を頼みたい。例えば、大迫に勤務していても住所地が花巻の職員もおり、通勤の途中を利用して、対応することができる。圏域を取り外し、一つにした考え方はできないものか。ただし、相談窓口についてはこれまでどおり、一本化にすることはできない。現場では、サービスを必要な人に、サービスをつなげている。ただ、サービスから漏れる人については、地域の支え合いが必要で課題になっている。

高橋課長補佐 補足させていただく。包括の一元化については、先ほどの介護保険運営協議会での部長の話や、小早川委員が話したとおり。生活圏域は 5 つに分けているが、生活圏域の中心に住む人は利用問題は無いが、生活圏域の境界に住まう人は、隣の生活圏域の支援センターの方が近く利用しやすい場合もある。しかし、介護予防については、生活圏域を超えてサービスをすることが難しい。生活圏域の考え方を見直す検討を重ねている。第 5 期計画の中に見直し案をご提示できるように進めていきたい。

影山会長 4つ目のネットワークの構築について。前年度より医療機関や介護事業所との会議は増えているが、地域やコミュニティ会議との連携が減っているのはなぜか。

八重樫副主任 今年度は12月末現在のデータなので、前年度に比べても地域とのネットワークは決して少ない訳ではない。それ以外の部分が、前年以上の活動をしている。

藤本委員 民生委員の集まりに包括も来ているので、連携が少ない訳ではない。

影山会長 地域との連携は必要。その連携があるのはよいことだ。協議内容については、了承いただいたということでよいか。

(委員より「はい」の声が上がる。)

(2) 平成25年度花巻市地域包括支援センターの運営方針並びに事業計画について

(玉山課長が説明)

質疑応答

影山会長 質問はあるか。

小早川委員 歯科医師会の宣伝をしたい。少ない事例で申し訳ないが、往診に行った時の話だ。口から食事をとりたいとケアマネやヘルパーに相談していたが、上手く伝えることができなかった。そこで、インターネットで口腔ケアや嚥下について探して対応したと聞いた。ケアマネは分からないことがあれば、相談してほしい。もっと医療と連携を。じょくそうだけでなく、お口の中も見えていただくようお願いしたい。花巻歯科医師会は介護との連携について応援したいと思っている。

熱海委員 包括は市が作って、委託先に運営をお願いする。認知症については、若年性だと50代くらいから出る人がいる。その部分は社協や介護だけではサービスがやりにくい。住んでいる人は年齢で分かれていない。他市でそのような相談があった。

佐藤主任主査 認知症サポーターは市が中心になって進めてきた。精神疾患ほい人に受診を勧めてみたところ、認知症だったことがわかり、介護につなげたケースもあり、連携しながら進めている。

熱海委員 花巻市がきちんとやっていることは知っている。

影山会長 包括支援センターが全国に誇れる花巻モデルになるように、頑張ってもらいたい。協議内容については、了承いただいたということでよいか。

(委員より「はい」の声が上がる。)

閉 会 15:40